

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和元年度 12 月

○ 概要

(1) 令和元年 12 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,848 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.3%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,216 円（伸び率+1.8%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,763 億円（伸び率+4.1%）薬剤料が 5,072 億円（伸び率+4.4%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 942 億円（伸び率+1.6%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,460 円（伸び率+0.8%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.81 種類（伸び率▲1.6%）、25.1 日（伸び率+2.6%）、78 円（伸び率▲0.1%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料 4,057 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+131 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 714 億円（伸び幅▲14 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+53 億円（総額 375 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,057 億円 (+131 億円)	21 循環器官用薬 (714 億円)	11 中枢神経系用薬 (703 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(657 億円)
0 歳以上 5 歳未満	31.8 億円 (▲2.8 億円)	44 アレルギー用薬 (12.4 億円)	61 抗生物質製剤 (5.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	95.2 億円 (▲0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (31.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (22.4 億円)	62 化学療法剤 (8.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,429 億円 (+49 億円)	11 中枢神経系用薬 (305 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(249 億円)	21 循環器官用薬 (218 億円)
65 歳以上 75 歳未満	952 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (198 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(189 億円)	42 腫瘍用薬 (119 億円)
75 歳以上	1,549 億円 (+64 億円)	21 循環器官用薬 (293 億円)	11 中枢神経系用薬 (261 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(213 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,216 円（伸び率+1.8%）で、最も高かったのは高知県（11,156 円（伸び率+4.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,883 円（伸び率+0.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+4.6%）、最も低かったのは富山県（伸び率▲0.6%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	79.9 %	+2.8 %
薬剤料ベース	18.6 %	▲0.5 %
後発品調剤率	76.2 %	+2.0 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.3 %	+2.0 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量）+〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.6 %	+13.9 % (15 歳以上 20 歳未満)	▲8.1 % (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6 %	23.9 % (0 歳以上 5 歳未満)	12.6 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	79.9 %	82.2 % (60 歳以上 65 歳未満)	74.4 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	817 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (247 億円)	23 消化器官用薬 (113 億円)	11 中枢神経系用薬 (105 億円)
0 歳以上 5 歳未満	9.7 億円 (▲0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (3.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (1.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	21.1 億円 (+1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (9.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)	61 抗生物質製剤 (3.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	284 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (51 億円)	23 消化器官用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	193 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20 億円)
75 歳以上	309 億円 (+0 億円)	21 循環器官用薬 (101 億円)	23 消化器官用薬 (53 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,268 円	1,641 円(北海道)	1,076 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.9%	+1.7 % (山梨県)	▲4.3 % (富山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	79.9 %	88.4 % (沖縄県)	73.6 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6 %	22.1 % (鹿児島県)	16.3 % (京都府)
後発医薬品調剤率	76.2 %	83.4 % (沖縄県)	71.4 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.3 %	64.0 % (沖縄県)	51.3 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和元年12月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。